

価値ある地域連携を目指した 地道な感染制御活動

箕面市立病院
感染制御部 副部長
四宮聡

なぜ、連携が必要なのか？

トップページ > 科学・医療ニュース一覧 > インフルエンザ院内感染か 2人死亡

ニュース詳細

インフルエンザ院内感染か 2人死亡

1月20日 22時47分



大阪・箕面市の病院で、今月に入ってから、入院患者と看護師合わせて12人がインフルエンザに集団感染し、このうち91歳と100歳の患者が死亡しました。

インフルエンザの集団感染が起きたのは箕面市の箕面市立病院です。

これが、介護保険施設だったら？

に、面会者を含めマスクの着用や手の消毒を徹底するなどの対策を強化しました。

箕面市立病院の田村信司総長は記者会見で、「亡くなられた患者のご遺族にお悔やみ申し上げるとともに、深くおわび申し上げます。これまで以上に院内感染の防止に取り組んでいきます」と陳謝しました。

病原体は国境（施設）を越える



(皮膚科から) 特養〇〇から疥癬患者が出たよ

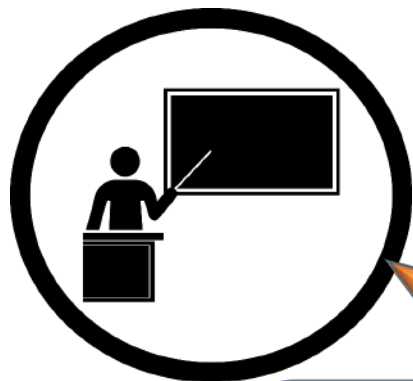
そういえば、先週も1人...

そういえば、入院患者に特養〇〇から来た患者さんいたような...

疥癬、インフルエンザ、耐性菌、ノロウイルスetc

MRSAが2+出ていると受け入れできません
陰性を確認してください

C.Diff腸炎の感染対策は何をした
らよいですか??



疥癬にはどんな消毒薬が
効きますか?

うち（当院）は急性期病院ではないので…
ここは療養型なので…

自施設の活動のみに邁進することが
必ずしも効果的とは限らない

限られた時間で大きな効果が出る
仕事求められる

いい仕事をしないと！

=価値ある

感染防止対策加算1

- 感染制御を担う部門を設置し、専従者を配置
- 院内ラウンド
- マニュアルを作成し、配布
- 年2回以上の研修
- 抗菌薬の届け出/許可制
- ケースカンファレンスの開催(年4回)
- コンサルテーションの実施
- 厚労省サーベイランス事業(JANIS)に参加

抗菌薬適正使用支援加算

- 感染症早期からのモニタリングを実施する患者を設定
- 経時的に評価し、主治医にフィードバック
- 微生物検査・臨床検査が適正に利用できる体制を整備
- 抗菌薬使用状況、血液培養複数セット提出率、耐性菌発生率、抗菌薬使用量などを定期的に評価
- 職員研修を年2回程度実施
- マニュアルを作成
- 抗菌薬の種類、用量、採用中止等の見直し
- 加算を算定していない医療機関から、相談等を受ける

地域連携活動

- コンサルテーション(相談)
- アウトブレイク支援
- 感染制御ラウンド(病院・施設)
- 保健所と合同の病院・施設ラウンド
- 管内の病院/施設ネットワーク会議
- 研修会の開催(看護師・介護士)
- 認定看護師のネットワーク

簡単なようで難しい連携

連携

cooperation


 同じ目的を持つ者が互いに連絡をとり、協力して取り組むこと

感染制御

抗菌薬適正使用

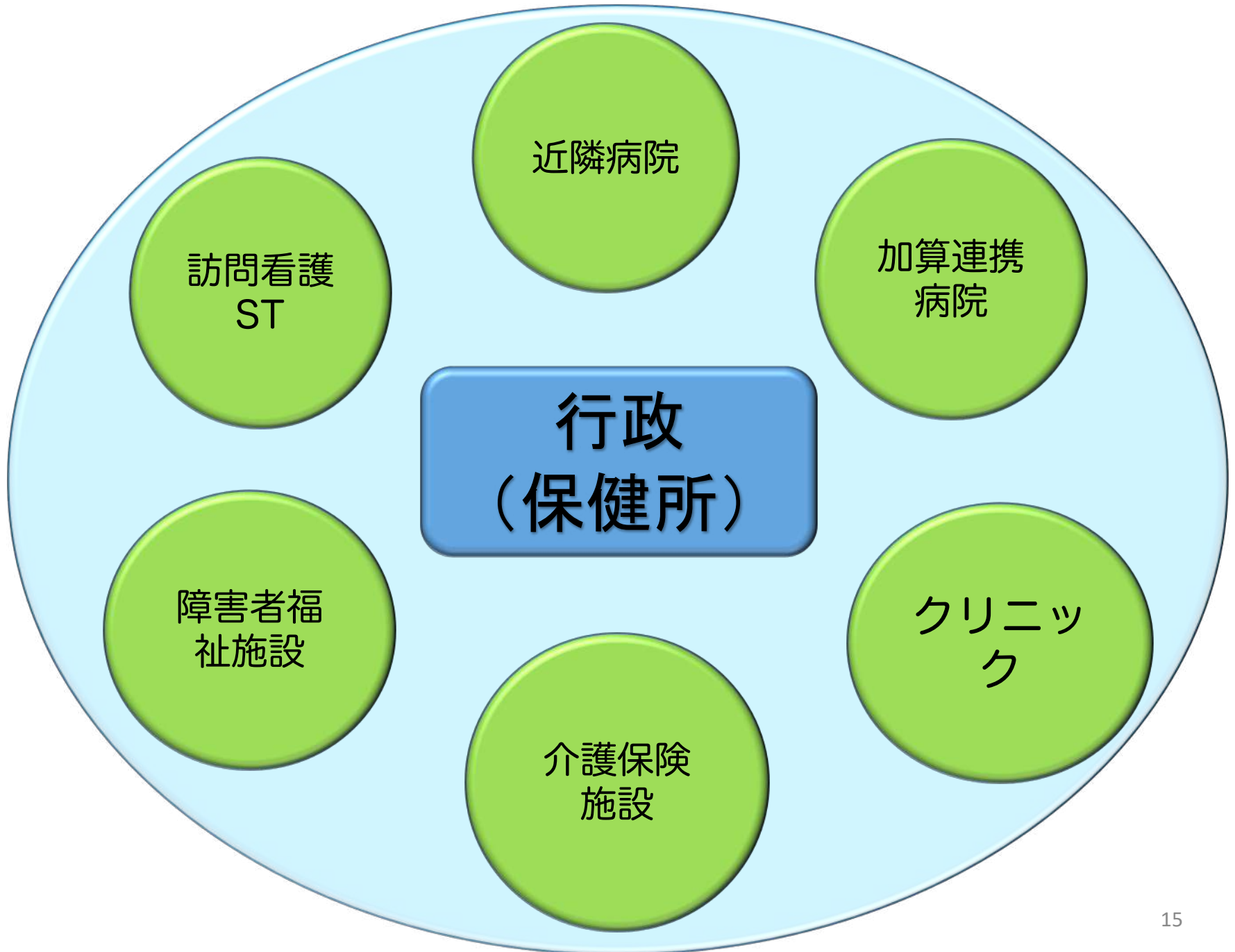
支援

support

 支え助けること、
援助すること

成功させるための条件

- 顔が見える関係である
- 双方向性(非依存的)である
- 組織内で承認されている
- 本業(務)への支障を最小限にする
- 行政の協力体制がある



近隣病院

加算連携
病院

訪問看護
ST

行政
(保健所)

クリニッ
ク

障害者福
祉施設

介護保険
施設

クリニック
A

老健A

A病院

B訪問ST

特養B

クリニック
B

箕面市立病院

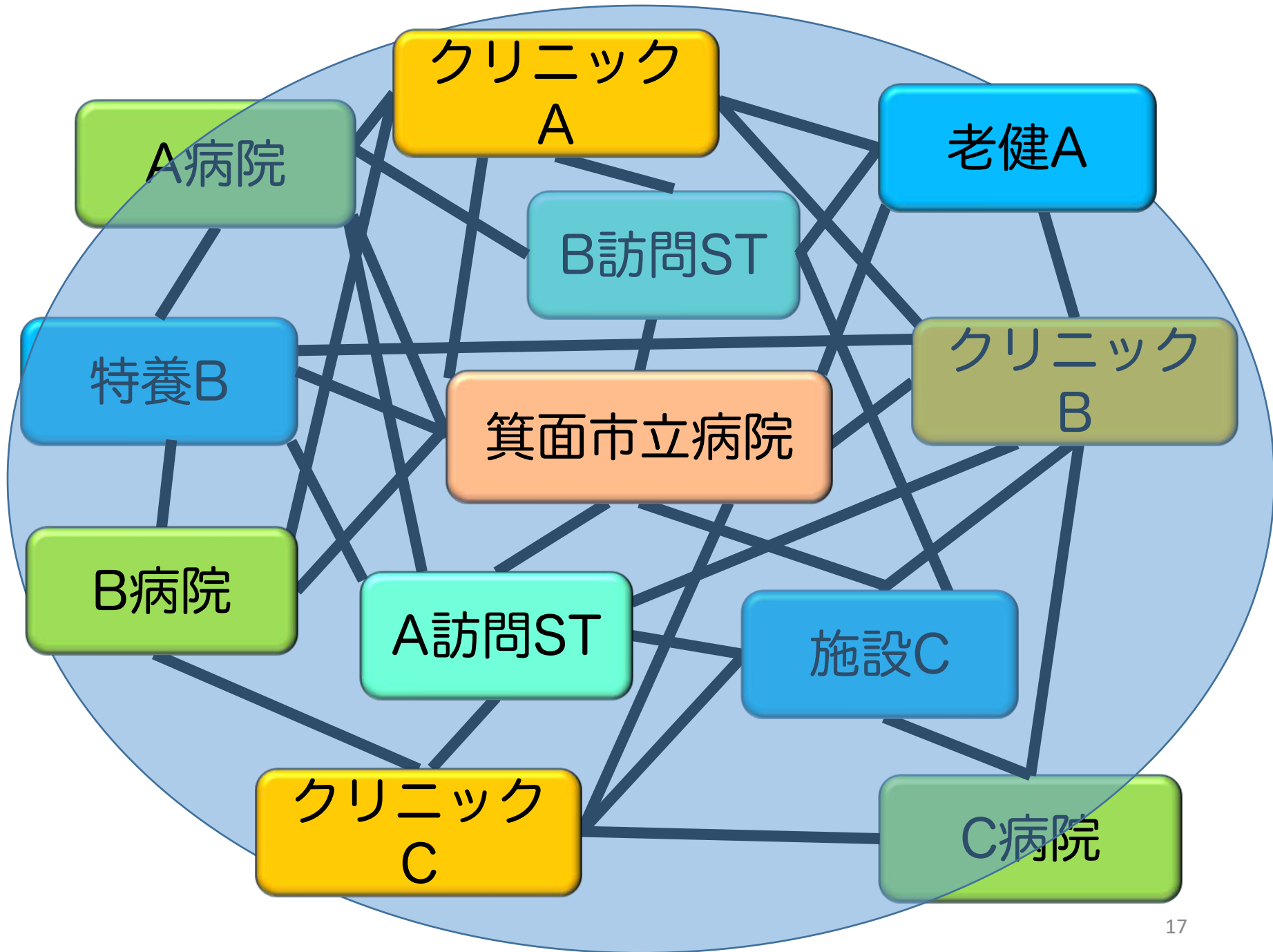
B病院

A訪問ST

施設C

クリニック
C

C病院



院内の活動を優先すべきでは？

何かあったときの責任は？

それは行政（保健所）の仕事ではないか

今でも十分忙しい

地域連携の実際

地域連携における価値

医療関連感染防止につながるか

目的は


(地域の)

医療関連感染を減らす

減らすためには

 標準予防策の普及

 感染対策の遵守改善

 持ち込み

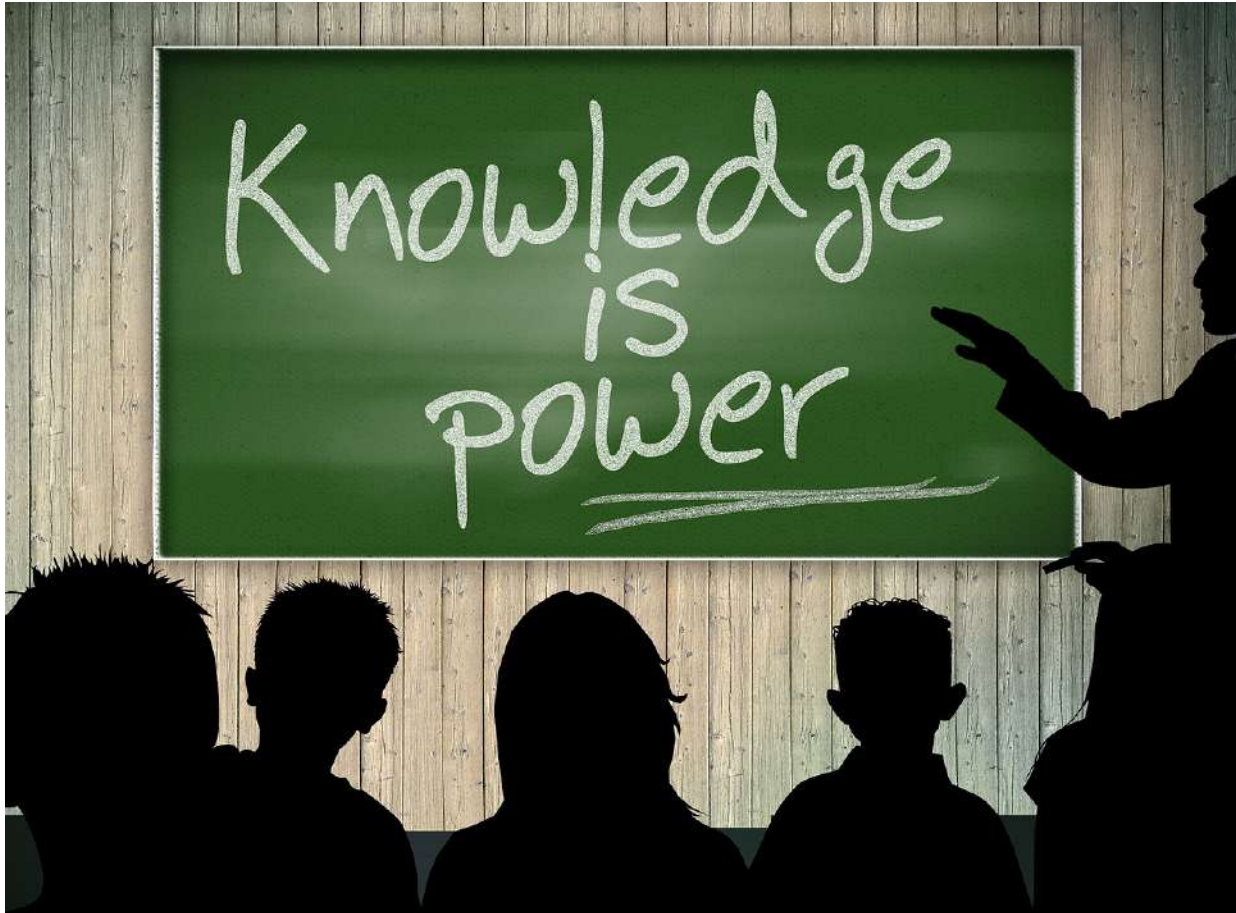
 地域でのアウトブレイク

活動内容

- 教える
- 相談を受ける
- 訪問する

- 研修
- コンサルテーション
- 感染制御ラウンド

研修



地域対象研修

- 北摂感染制御研究会(医療職全般)
 - スキルアップ研修(看護師)
 - 北摂地域感染対策ネットワーク研修会(看護師)
 - 介護士対象研修
 - 訪問看護師対象研修
- ＋各病院からの講義依頼
- ＋院内対策ネットワーク会議
- ＋施設ネットワーク会議

北摂感染制御研究会

- 医療者全般を対象とした研修会
- 院内職員と地域の医療者が共に学ぶ場
- 年2回の開催
- 著名な講師を招聘しての講演形式

スキルアップ研修

- 市内の看護師であればだれでも参加可能
- 院内看護師・小規模病院看護師が中心

年度	テーマ
27	15分で学ぶ手指衛生のあれこれ
28	特殊な感染症とその対策 ～CD腸炎、結核、CRE、多剤耐性緑膿菌を中心に～
29	中心静脈カテーテルの管理とトラブルシューティング
30	現場でも！家庭でも使える！感染症と感染対策の知識(予定)

地域ネットワーク研修会

- 地域の底上げ・支援を主な目的として内容を設定
- 2段階の難易度で自分で聴講するテーマを選択
- 感染対策以外の関連領域も学習可能
- 参加費を徴収
- 感染対策に関連するメーカーの展示

介護士対象研修

- 介護福祉士のみ対象
- 感染対策の基本と実技を中心とした構成
- 認知症看護認定との合同開催

訪問看護師対象研修

- 訪問看護師のみ対象の研修
- 在宅での感染対策とデバイス管理(実技)で構成



相談 院外コンサルテーション



院外コンサルテーションの開始 幹部会議で提案



- 🍌 地域施設担当者協議会での広報/郵送
- 🍌 FAXとメールによる感染対策相談

困っている現場のスタッフ
「これ、どうしたらいいの？」



そうだ！
四宮に聞いてみよう！



とはならない…



「仕組み」は良い,でも何かが足りない…



では、こちらから訪問したら??

訪問する 感染制御ラウンド



再度、幹部会議で感染制御ラウンドを提案



感染制御ラウンド

- 🍌 募集要項と依頼書（ひな形）を病院長へ送付
 - ※医療監査とは異なることを強調
- 🍌 施設名・連絡先・希望日時を記載して返送
- 🍌 希望施設へ無償で訪問
- 🍌 ラウンド後、報告書を作成

院内の活動を優先すべきでは？

何かあったときの責任は？

それは行政（保健所）の仕事ではないか

今でも十分忙しい

ごもつとも



しかし...

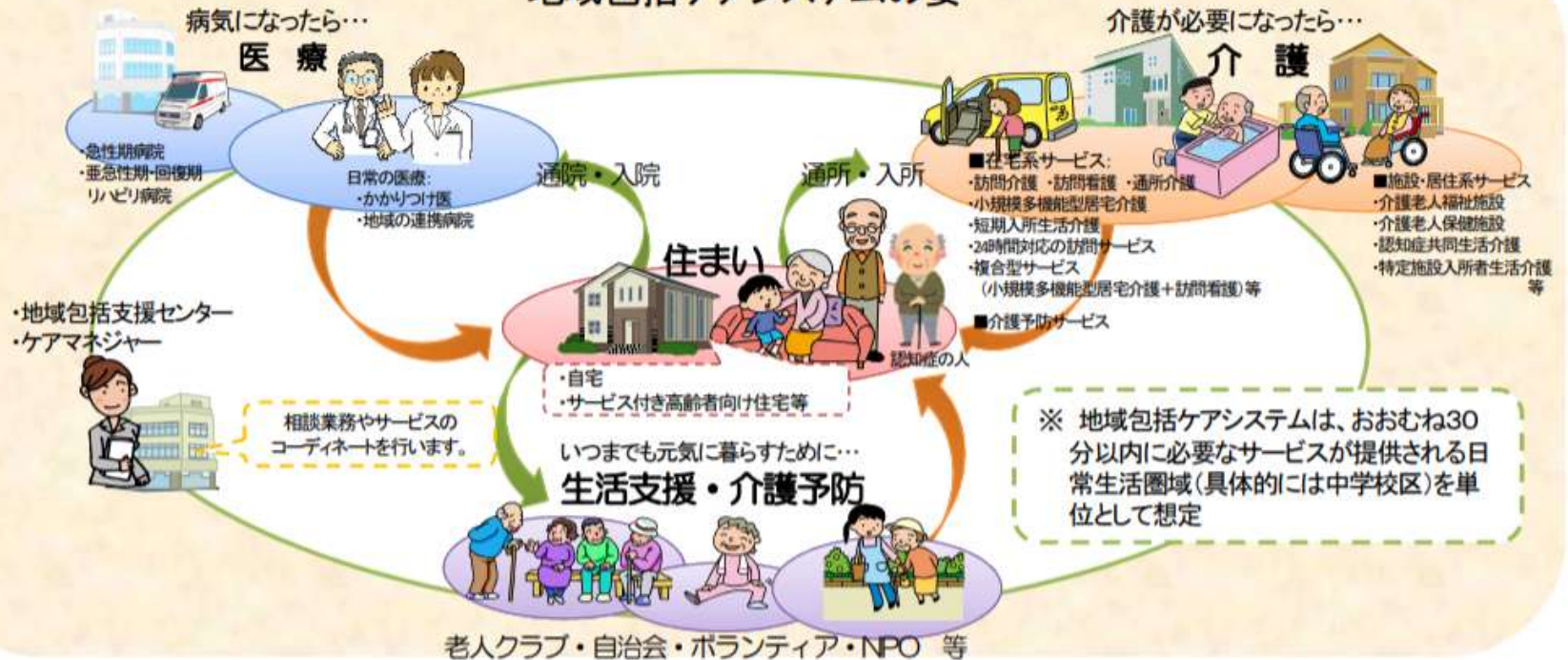
- 感染対策は(保健所よりも)ICNの方が経験が豊富
- 地域に認知してもらおう絶好のチャンス
- 今後の有事(アウトブレイク・災害など)で有効に働くことが期待できる
- 耐性菌の持ち込み制御やデバイス管理の周知へつなげる

エビデンスに乏しいことでも、
提案を受け入れてもらえる土壌づくり

地域包括ケアシステム

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現**していきます。
 - 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。
 - 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差**が生じています。
- 地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性にに基づき、地域の特性に応じて作り上げていく**ことが必要です。

地域包括ケアシステムの姿



とりあえず、やってみよう



行ってみると...施設側は

厳戒体制...

ラウンドのメリット（施行側）

- 様々な施設を見る（現実を知る）
絶好のチャンス
- 経験値が上がる
- 地域に認知してもらえる
- 外部から評価される
- 教育・啓発の窓口・機会（チャンネル）

獲得
+ ラウンド開始翌年から感染対策加算が開始

ラウンドのメリット（受け入れ側）

- 病院担当者とつながり、以後も相談しやすい
- 具体的なアドバイスがもらえる
- 無料
- 報告書を改善の外圧として利用できる
- 医療監査対策になる

ラウンドの流れ

募集

市内医療施設・長期療養施設担当者各位

貴下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、当院では、地域の感染制御支援を目的として、感染制御看護師による感染制御支援ラウンドを行いたいと考えております。ご希望される場合は、5月8日(金)までに添付の依頼票を返信をお願い致します。

- * ラウンドは、薬剤耐性菌や流行性疾患の施設内での感染制御を目的として行うもので、医療監査とは関係ございません。
- * 具体的な日程につきましては、別途調整させていただきます。

尚、誠に勝手ながら締め切り以後のラウンド希望はスケジュール等もあるため、次年度とさせていただきますのでご了承ください。

箕面市立病院 チーム医

日程調整

					Friday	Saturday
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	
11	12	13	14	15	16	
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

窓口担当者が同行できる日程を調整

募集は年度開始の設定した期間のみ

ラウンド

施設側の希望部署をベースにラウンド

結果(ラウンド実施状況)

ラウンドが定着してくると



ありがたがられる



事務的な課題

- 依頼書作成・院内決済・送付
- 施設側とのスケジュール調整
- 交通手段の手配（ママチャリ→公用車へ）
- 報告書の作成

事務的な課題

- 施設側との時間調整 🍌 やるしかない
- 交通手段の手配 🍌 その都度予約・手配
- 施設ごとに院内決済 🍌 雛形を作成して効率UP
- 報告書の作成 🍌 雛形を作成して効率UP

目標は、1施設につき全作業（募集～報告書まで）を3
時間

※年あたりにかかる（投資する）労力が3時間以内

アウトブレイク支援

- ラウンド・コンサルテーションを通じて連絡を取るようになった施設からの依頼
- 疥癬・インフルエンザ・ノロウイルス発生時

- 個別の課題に対する助言
- 施設長・病院長の依頼があれば直接訪問
- 早期の保健所への報告を促す

ラウンドの成果

- 対外的な評価（病院幹部が院外でお礼を言われる、機能評価での評価など）
- 転院調整の円滑化（ICNが関与することで受け入れの障壁が小さくなる）
- 講師依頼の増加（教育・啓発機会の増加）
- 地域対象研修の参加者増加（意識の向上）
- 環境面での顕著な改善
- 標準予防策の普及促進

成功のカギは行政にあり！

～行政との連携と今後の方向性～

残された課題

- 無関心な施設へのアプローチ
- 希望施設増加に伴う負担増
- 感染対策遵守を測定できない
- 保健所を巻き込んだラウンド

行政と医療施設

医政地発1219第1号
平成26年12月19日

各 { 都道府県
政令市
特別区 } 衛生主管部(局)長 殿

厚生労働省医政局地域医療計画課長
(公 印 省 略)

医療機関における院内感染対策について

院内感染対策については、「医療機関等における院内感染対策について」(平成23年6月17日医政指発0617第1号厚生労働省医政局指導課長通知。以下「0617第1号課長通知」という。)、
「良質な医療を提供する体制の確立を図るための医療法等の一部を改正する法律の一部の施行
について」(平成19年3月30日医政発第0330010号厚生労働省医政局長通知)、「薬剤耐性菌に
よる院内感染対策の徹底及び発生後の対応について」(平成19年10月30日医政総発第1030001
号・医政指発第1030002号)等を参考に貴管下医療機関に対する指導方お願いしているところ
である。

- (2) アウトブレイクに対する感染対策を実施した後、新たな感染症の発病症例(上記の5種類の多剤耐性菌は保菌者を含む。)を認めた場合には、院内感染対策に不備がある可能性があるとして判断し、速やかに通常時から協力関係にある地域のネットワークに参加する医療機関の専門家に感染拡大の防止に向けた支援を依頼すること。
- (3) 医療機関内での院内感染対策を実施した後、同一医療機関内で同一菌種の細菌又は共通する薬剤耐性遺伝子を含有するプラスミドを有すると考えられる細菌による感染症の発病症例(上記の5種類の多剤耐性菌は保菌者を含む。)が多数に上る場合(目安として1事例につき10名以上となった場合)又は当該院内感染事案との因果関係が否定できない死亡者が確認された場合には、管轄する保健所に速やかに報告すること。また、このような場合に至らない時点においても、医療機関の判断の下、必要に応じて保健所に報告又は相談することが望ましいこと。

行政と医療機関は日常から
協力関係を構築しておくべき

保健所をハブとした活動

- 病院感染対策ネットワーク会議
 - 年2回の管内病院担当者が集まる
- 施設感染対策ネットワーク会議
 - 年2回の管内施設担当者が集まる

あらたな取り組み

- 保健所・他施設同行によるラウンドの開始
- ラウンド希望施設に対し、同行の内諾を確認
- 医療監査とは異なることを明記

ラウンド

意見交換

総評

個人情報に注意の上
写真撮影可

他施設の方法・対策も共有

価値ある地域連携とは...

- 🍌 顔の見える関係性
- 🍌 ゆるやかに施設同士をつなぐ
- 🍌 感染対策の重要性が理解できる
(標準予防策)
- 🍌 有事に情報を共有できる
(施設内で隠さない)

地域連携の実現

組織戦略と

自分の眼で見る**行動力**

医療関連感染に関する**データ**を持って

対話を通じて**仲間**を増や
す

明日からの地域連携活動に
活かされますように！

